

【国宝 新指定の部】

① 中世の土豪が建てた我が国現存最古の民家

(近世以前／民家)

箱木家住宅（兵庫県神戸市北区山田町）主屋 1棟

所在地：兵庫県神戸市

所有者：個人

神戸市北区の衝原湖東岸に位置する民家。箱木家は、中世における山田庄の土豪で、応永期（1394～1428）頃に地域の祭祀組織・宮座において頭屋に次ぐ役職・下頭屋を務めた。主屋は14世紀頃の建築で、我が国現存最古の民家。吞吐ダムの建設に伴い、昭和50年代に約70m移築された。入母屋造、茅葺で軒は低く、大壁造の外壁は開口が少なく閉鎖的な外観を呈する。正面側に1室、背面側に2室を並べる前座敷型三間取の形式は当地域の民家が示す平面の祖型と考えられる。全ての柱間寸法が異なる柱配置は異例。部材は加工が粗く、断面が不整形な柱や細い角材の上屋梁、分厚い貫などで構成された架構は古様を示す。上屋と下屋を繋ぐ軸部材がない点は特異。我が国の民家史において劈頭をなす遺構として貴重であり、また、中世において地域支配の一翼を担った土豪の住生活の実態を知る上でも類い希な現存遺構であって、極めて深い文化史的意義を有している。

○指定基準＝重要文化財のうち極めて優秀で、かつ、文化史的意義の特に深いもの



主屋外観 正面

提供：神戸市文化スポーツ局

② 中世の景観を今に伝える、我が国現存最古級の民家

(近世以前／民家)

きゅうふ る い けじゅうたく ひょうごけん ひめ じし やすとみちよう
旧古井家住宅（兵庫県姫路市安富町） 1 棟

所在地：兵庫県姫路市

所有者：姫路市

姫路市北部の山間部を流れる林田川右岸の高台に位置する民家。中世に名主^{みょうしゅ}であったと伝わる旧家、古井家が15世紀に構え、以来現在に至るまで当地にて維持されてきた。
入母屋造^{いりもやづくり}、茅葺^{かやぶき}で、大壁造^{おおかべづくり}の外壁は開口が小さく閉鎖的な外観。正面側に1室、背面側に2室を並べる前座敷^{まえざしき}型三間取^{みまどり}の形式は、近畿地方の近世民家が示す平面の祖型の一つとされる。一間ごとに柱を立てる整然とした柱配置で、省略がないため室内等に独立柱が現れる。断面が不整形な柱は室内からの見掛^{みえが}りのみ丁寧に仕上げ、上屋梁^{じょうやばり}は扁平な角形で細く、貫^{ぬき}は分厚く造り、架構^{かこう}は古式。中世に遡る極めて稀少な現存最古級の民家で、中世民家史を考える上で不可欠な遺構。建築以来、悠久の時を経てなお変わらぬ場所と環境で維持されてきた点も特筆される。我が国中世の上層民の生活を紐解く上で貴重な現存遺構であり、中世の景観を伝える民家建築として極めて深い文化史的意義を有する。

○指定基準＝重要文化財のうち極めて優秀で、かつ、文化史的意義の特に深いもの



外観 正面

提供：姫路市教育委員会

【重要文化財 新指定の部】

- ① 濃密な彫刻が目を引く、関東における素木の装飾社殿の極致 (近代／宗教)

氷川神社本殿 1棟

所在地：埼玉県川越市

所有者：氷川神社



外観 南東より

提供：氷川神社

川越城跡北方に境内を構える旧川越城下の総鎮守。天保13年(1842)の着工で、嘉永2年(1849)に屋根葺き、明治3年に上棟遷宮式を行った。唐破風造の向拝を備えた入母屋造、正面千鳥破風付、瓦棒銅板葺の社殿で、大工棟梁は印藤捨五郎と桑村三右衛門、彫物師は嶋村源蔵と飯田岩次郎。木理の美しい素木に施した濃密な彫刻は、繊細かつ立体感に溢れ、天岩戸等の日本神話、源氏にまつわる物語など多様な題材を巧みな構図と豊かな情景で表現しており、彫物師の傑出した造形力と技巧が看取される。過剰ともいえる彫刻装飾は、建築と破綻なく調和しており、工匠の高い技量もうかがえる。関東において江戸後末期に現れる素木の装飾社殿の極致として価値が高い。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの

- ② 明治中期に特有の形態を示す、現役最古の鉄造灯台 (近代／産業・交通・土木)

姫埼灯台 1基

所在地：新潟県佐渡市

所有者：国（海上保安庁）



外観 北西より

提供：文化庁

佐渡島の両津港東方の岬に位置する洋式灯台。夷港（現両津港）は、幕末に五国と結んだ修好通商条約に基づき開かれた新潟港の補助港で、明治元年の開港。姫埼灯台は、夷港への海上交通の増加に伴い設置された航路標識で、明治28年10月に竣工、同年12月に初点灯。六角錐台形状に支柱を建て、1層と3層を屋内化した鉄造灯台で、2層は円筒部の外部に構造材を現し、中央に設けた円筒部の鉄製螺旋階段により灯籠に至る。全体を白色塗装で仕上げる。明治初年から外国貿易に開かれた佐渡島に寄港する船舶の安全を守り続けた貴重な航路標識で、明治20年代以降、我が国で数多く建設された鉄造灯台のうち最古の現役灯台として価値が高い。

○指定基準＝歴史的価値の高いもの

③ 日本人技術者が主導した我が国最初の洋式灯台

禄剛崎灯台 1基

所在地：石川県珠洲市

所有者：国（海上保安庁）、珠洲市

能登半島の最先端部、珠洲市の禄剛崎台地に建つ洋式灯台。明治5年、日本海における航行の要所として設置が必要とされ、我が国灯台業務の中核を担った工部省工部少技長、藤倉見達の指導により、明治16年7月に竣工及び初点灯した。北面に半円形平面の付属舎を備えた石造灯台で、灯塔の上に金属製の灯籠を載せ、全体を白色に塗装する。石積は、手摺付バルコニーより上部を平滑に仕上げ、下部は江戸切仕上げとする。内部は2層からなり、鉄製螺旋階段で灯籠に至る。日本人技術者が主導して建設した我が国初の本格的な洋式灯台であり、航行の難所として知られる能登半島沖を通航する船舶の安全を、明治前期から守り続けてきた主要航路標識として、近代海上交通史上価値が高い。

○指定基準＝歴史的価値の高いもの

（近代／産業・交通・土木）



外観 南西より

提供：文化庁

④ 森の中に建つ、美しい形態と豊かな空間を備えた建築家吉村順三の別荘（近代／住居）

旧吉村順三別邸 1棟

所在地：長野県北佐久郡軽井沢町

所有者：個人

軽井沢町東部の矢ヶ崎川左岸に茂る木立の中に敷地を構える。東京藝術大学で教鞭を執った建築家吉村順三が、昭和37年に建てた自らの別荘。鉄筋コンクリート造の1階に、大きく張り出した木造の2階と中3階を載せた建物で、片流れの屋根をかけ、自然に溶け込む美しい形態を実現した。アントニン・レーモンド建築設計事務所で培った、スギ現しの内外装、開放的な開口、快適な半屋外の空間などの手法を洗練させた吉村の別荘建築における代表作。基準寸法に通常は使用しない2尺を用い、細部の収まりを精緻に検討して、コンパクトな正方形平面に生活の機能を巧みに収めている。鉄筋コンクリート造によるテラスや吹抜けで繋がる居室等により豊かな空間を創出した木造のモダニズムの秀作。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの



外観 南東より

提供：文化庁

⑤ 奈良随一の眺望地に建つ、趣向を凝らした瀟洒な別邸

(近代／住居)

棲霞園

4 棟

主屋、北土蔵、南土蔵、表門

所在地：奈良県奈良市

所有者：ロート製薬株式会社

棲霞園は、信天堂山田安民薬房（現ロート製薬株式会社）の創業者山田安民が、引退後に若草山や飛火野を望む奈良随一の眺望地に建てた別邸である。

主屋は昭和3年の建築で、接客や居間、家政など明

確に機能を分けた建物が口の字形に中庭を囲む配置形式は、昭和初期の大規模邸宅の特徴を示す。いずれの室も吟味した良材を用い、数寄屋風の意匠を基調としつつも、広間などは端正に仕上げ、格調が高く、大工の精緻な技が見て取れる。また、広間への接客の動線は取付に奏楽のための舞台を設けるなど独特で、芝庭越しに若草山などの眺望を取り込む工夫も秀逸。武者小路千家の茶人、三代木津宗詮による茶室や様々な意匠を折衷した応接室なども含め、実業家が構えた上質な近代和風建築として価値が高い。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの



外観 北東より

提供：奈良県

⑥ 洗練された接遇と生活の空間を備える有力商家の豪壮な屋敷

(近代／住居)

旧服部家住宅

7 棟

主屋、長屋門、宝蔵、大蔵、西米蔵、東米蔵、納屋

所在地：岡山県瀬戸内市

所有者：信豊株式会社

旧服部家住宅は、瀬戸内市牛窓町の海浜に位置する。幕末から近代にかけて、木材流通をはじめとする多角的な事業の展開により隆盛した商家の屋敷である。

主屋は大正3年の建築で、破風を二重とした豪壮な建

物。四方柱のトガや美しい木目のケヤキ、屋久杉など、木材商の矜持を示す上質な木材を存分に使用し、木地をいかした端正なつくりである。それぞれ趣向を違えた多彩な座敷と茶室は上品で、床構えに幾種もの銘木を取り合わせ、壁には数種の色土を用い、変化に富む、洗練された接遇と生活の空間を形成している。また、地元大工による施工も優秀。広大な敷地には、事務と応接の機能を備えた長屋門や堅牢な土蔵群、長大な納屋などが巧みに配置され、近代に隆盛した商家の屋敷構成を伝えており貴重である。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの



外観 南より

提供：文化庁